

2012年10月29日

第12回 日中韓三カ国会計基準設定主体会議を開催

2012年10月10日、韓国のソウルにおいて、韓国会計基準委員会（KASB）の主催で、日本、中国、韓国の会計基準設定主体による会議が開催されました。本会議は、2001年の最初の会議以来、日中韓三か国のみならず、アジア・オセアニア地域全体における会計上の論点を議論する重要な会議へと発展しており、今後は国際的にもより大きな役割を担う事が期待されています。

本会議には、企業会計基準委員会(ASBJ)の西川郁生委員長、中国会計準則委員会(CASC)の楊敏司長、KASBの Suk Sig (Steve) Lim 委員長、国際会計基準審議会(IASB)の鶯地隆継理事、Wei-Guo Zhang 理事、Chung Woo Suh 理事、オブザーバーとして香港公認会計士協会財務報告基準委員会の Clement Chan 委員長、マカオ監査人会計士登録委員会の Chi Chung Yung 委員の他、各国の代表者 20 名が参加しました。

会議において各代表者は次のような様々なテーマに関し、有意義且つ建設的な議論を行いました。CASCからはIASB新興経済国グループ(IASB EEG)における最新の作業状況について、KASBからは中小企業の会計基準について、ASBJからはIFRS財団アジア・オセアニアオフィスの最新の情報についてそれぞれ報告が行われました。また、共通支配下における企業結合に関しても、深い議論が行われました。また、各代表者はIASB理事よりIASBアジェンダ協議及びIASBの現行のプロジェクト（収益認識、リース、金融商品、及び保険契約）に関する最新動向についての説明を受け、関連する論点に関して意見交換を実施しました。

本会議において、各代表者は、今後次の点に関して相互協力を行う旨を合意しました。

1. 国際財務報告基準（IFRS）に関する各国での問題点を共有し、各国が協調を図りながらこれらの問題点の解決に向けた議論を通じて、相互理解を高め、IFRSの発展を促進する。
2. IFRSのより建設的な開発と改訂に貢献できるよう、IASBの現行プロジェクトに関する見解を共有する。
3. 2012年10月に東京に開設されたIFRS財団アジア・オセアニアオフィスの円滑な運営のため、全面的な支援を行う。

次回の会議は、2013年に日本で開催される予定です。